

れない道を選択してしまったようである。

昨年夏、私が南濃町戸田地内で確認したオニバスは、たった1株で最大浮葉は45 cmと貧弱なものであった。磯部氏の報告のように大群落は見る影も無く、他の水草は殆ど皆無に等しかった。だが、小さな水路などには逆に水草は多く残っている。特にヒシやトチカガミ、ホテイアオイなどは大群落を形成している。地元の釣り客の話によれば、最近、オニバスの若葉やガガブタの浮葉(スイレンの葉)のようなものは初夏に幾らか見られたが、その後、同じ場所に見ることはなく、いわゆる水草のようなものは、池で見ることは無いという。晩秋にガガブタの殖芽や、ヒシの実など多量にあったのを私も確認しているが、今は無く、ため池が釣り堀化した時期と、水草が見られなくなった時期がほぼ合致することから、原因は言わずとも解るであろう。水質、土壌の悪化と釣り魚による食害ではないかと考えている。まだ詳細には調べてはいないが、過去から現在において戸田地内で見た主な水草を紹介するとともに、今後とも悲しい現状を見てゆくつもりである。

南濃町戸田地内の水草

ため池内の水草

ガガブタ	(最近消滅したと思われる)
ヒシ	(未同定)
ヒメビシ	(最近消滅したと思われる)
オニバス	(最近は生育不良)
ホテイアオイ	(少ない)
コウガイモ	(少ない)
サンショウモ	(最近消滅したと思われる)

水田や用水路の水草

キクモ	
ヒシ	(未同定) (多い)
キカシグサ	
キカシグサの一種	(未同定で完全沈水性で生育するもの)
ミズマツバ	(少ない)
ミゾハコベ	
マツモ	(未同定)
コナギ	
ミズアオイ	(ヒルムシロ的浮葉を形成している) (少ない)

ホテイアオイ	(多い)
トチカガミ	(多い)
クロモ	(多い)
オモダカ	
ヒルムシロの一種	(未同定)
イトモ類	(未同定)
ミクリの一種	(未同定) (少ない)
ミズワラビ	(やや少ない)
シャジクモの一種	(多い)
カヅノウキゴケ	
イチョウウキゴケ	
ウキクサ類	(何種あるのか不詳)

ニュージーランド産 *Potamogeton* の一品

尾崎 富衛

本年1月、New Zealand 南島に旅行の際下記の如きヒルムシロ属 *Potamogeton* の一品を観察することが出来たので、ここに紹介する。なおこの地は国立公園の保護地域として採集は遠慮したが、地域環境及び植物体の概要は下記の通りである。

- 1、日時 1991年1月14日
- 2、場所 ニュージーランド南島マウントクック村マウントクック山群のセバストポール山(1588 m)の中腹(alt. 約1200 m)の小台地
- 3、地形等 南と西はモレーンから成る山の斜面に遮られ、東と北は開けている。池の周辺には高木無く、亜高山帯低木が疎らに生えている。
- 4、池(図1) この池は地元で Red Tarns 又は Red Lake とよばれているが、*Potamogeton* の浮葉の色によるものと思われる。東西約50 m、南北約20 mのほぼ長楕円形、傍にも小池2個がある。
この池は融雪水が僅かに流入、流出するために透明度高く、底面までよく光が通る。底質は腐植が少し堆積する程度で貧栄養。水深約100 cm、水温は低い。
- 5、植生 水面 抽水植物はフトイに似た植物が少数生育するのみで沈水植物は全くな



図1. 池と *Potamogeton cheesemanii* の純群落



図2. *Potamogeton cheesemanii*

く、水面積の約70%を*Potamogeton*が覆う。

湖岸付近 一部低木が水面に張り出しているが、主に *Juncus* の1種が取り巻く

- 6、当該種 浮葉 葉柄長は葉身の2~6倍、托葉は細小密着、葉身は卵状長楕円形~広卵形、長さ3~5、幅1.5~3cm鈍頭 (図2)

全辺、表面鮮褐色~赤紫色、裏面淡褐色 (沈水葉については詳細観察困難)

花 花茎 3~7 cm、花序1.0~2.5 cm

花期 1月が盛期?

最も顕著な特徴は日本在来の種と異なり、葉身の表面が赤褐色を呈していること、浮葉の葉柄が著しく長いことなどである。

この種は角野康郎氏によれば、*Potamogeton cheesemanii* A. Benn. といひ、ニュージーランドとオーストラリアの一部にのみ分布する特異な種で、ニュージーランドでは浮葉性のヒルムシロはこの一種しかないということである。

終わりにご懇意なるご教示を頂いた神戸大学角野康郎氏に深甚なる謝意を表す。

(新潟市西小針台2丁目8-30)

柳井市の葉身・葉鞘に余り細毛のない チクゴスズメノヒエ 南 敦

1990年9月26日、山口県柳井市古開作山口県立柳井高等学校西側水路の上側小路や水路で幅約2~3m、長さ約20mにわたって群生しているチクゴスズメノヒエを見つけ小路のものを採集した。これは次のとおりである。稈はだ円形で長径約3.0mm、短径2.5~2.7mm。葉身の長さ約8.0~19cm、幅約8.0~12.0mm。

葉鞘の毛は、口部に約3.0mmの白色長毛、基部(節部)に約3.0mmの白色長毛。また、葉鞘の縁部に約4.0mmの白色長毛。しかし、葉鞘の背面にはルーペで見て、ごく短い微毛がある程度か、全くないものもかなりある。葉身には表裏とも全く毛はないか、または、下部(葉鞘口部辺り)の縁にのみ約3.0mmの白色の長毛をもつ。花序の総は3本と2本がほぼ1対3に混じる。1989年2月25日、同じ場所で採集したとき、葉身表面に細毛を密生し、葉鞘の方もルーペでよく見れば細毛があった(水草研究会報 No.35)。この細毛の状態は季節によって少し違って来るようである。また、株によっても若干違っている。いずれにしても柳井地方のチクゴスズメノヒエの細毛は著しく少ないようである。